

マルチディスプレイの採用で店舗を情報発信基地へと一新 商品・キャンペーン情報のタイムリーな表示で高い訴求効果を実現



導入先

東海東京証券株式会社さま

- 愛知県名古屋市(本社所在地)
- 2000年、東京証券と東海丸万証券の合併により発足。2009年、持株会社制への移行後、東海東京フィナンシャル・グループの中核証券会社に。全国に支店網を展開され、幅広い商品・サービスを提供されている。
- 東海東京フィナンシャル・ギャラリー(本物件)/東京都中央区



導入商品

インフォメーションディスプレイ

PN-V602 (60V型) × 12台

PN-R903 (90V型) × 2台

- 2014年1月、店舗リニューアルにより、「東海東京フィナンシャル・ギャラリー」を開業。正面入口左右のショーウィンドウに60V型の6面マルチディスプレイを2セット、店内に90V型を2台導入。
販売：ジャパンマテリアル株式会社さま

こんなソリューションを実現しました。

導入前の課題

東京・日本橋の中央通りに面した人通りが多い好立地を最大限に活かし、金融情報や商品情報などを視覚的に体験いただけるギャラリーを目指して店舗リニューアルを計画するなか、情報発信力のある最適なツールを求めていました。

入口左右のウィンドウに配置した6面マルチディスプレイでの情報発信が、高いアイキャッチ効果を発揮。

高輝度のディスプレイにより、陽差しを受ける明るい設置場所にもかかわらず、高い視認性を実現しました。

時間帯に合わせた表示、動きのある演出、様々な画面レイアウトなど、多彩な映像により表現力が向上。



東海東京フィナンシャル
・ホールディングス株式会社
ビジネス戦略グループ副担任
執行役員 山根 秀昭さま

■ 導入の背景

デジタルサイネージによる情報発信を強化し、東海東京フィナンシャル・ギャラリー開設へ。

オフィスや百貨店へ向かう人が数多く行き交う、好立地条件の店舗を活かし、より訴求効果が高い情報発信を展開しようと、デジタルサイネージの活用に着目しました。店舗に新しいお客さまを呼び込み、客層を広げていくうえでも、最新の大画面ディスプレイやタブレット端末などを使って、スマートに金融情報や商品情報などをご鑑賞いただけるような“ギャラリー”をつくりたいと考えました。

■ 選ばれた理由

マルチディスプレイなら設置スペースを最大限に使える。シャープ製の高画質、高輝度も採用の決め手に。

店舗入口両サイドのウィンドウ部分を最大限に使うことを考え、60V型6面(タテ3面×ヨコ2面)マルチディスプレイを2セット導入することを検討。シャープのBtoBショールームで実際にマルチディスプレイを体験し、迫力の大画面、クオリティの高い画質といったインパクトの強さに納得しました。また、陽の当たる明るい場所への設置でしたが、高輝度タイプを選ぶことで、満足のいく視認性も確保できました。

■ 導入後の効果

多彩なビジュアル表現が可能となり、立ち止まってご覧になるお客さまが増えました。

株式市場が開いている時間は、時々刻々と変わる株価や為替等のマーケット情報を、その他の時間帯には商品情報や当社の企業PRなどを流すなど、タイムリーな情報を発信できます。また、動きのある表現で見せたり、季節感を演出したり、マルチ画面を様々なレイアウトで表示したりと、多彩なビジュアル表現が可能となり、訴求力にも満足。鮮やかな映像に立ち止まってご覧になるお客さまが大幅に増えました。

■ 今後の展望

進化を続けるディスプレイを上手く活用し、お客さまへのサービスを充実させていきたい。

ギャラリー内には90V型ディスプレイも2台導入し、当社独自の「東海東京TV」を放映したり、投資信託商品等をアピールしていますが、さらに情報発信力を高める余地があると考えています。また、イベントスペースでも従来のスクリーンに代わって大型ディスプレイの採用を検討するなど、今後もディスプレイを上手く活用し、お客さまへのサービスを充実していきたいと考えています。



6面マルチディスプレイに大きく表示された株価や為替相場の値動きなどの情報に、立ち止まってご覧になる方が続々



株式市場が閉じている時間帯には、随時、キャンペーン商品やNISA(少額投資非課税制度)などの情報を発信



ギャラリー内のマルチディスプレイの背面に当たる箇所には、それぞれ90V型ディスプレイを設置されている